



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

群馬県 太田市立西中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- **目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- **事業名** : JOCオリンピック教室
- **主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- **後援** : スポーツ庁
- **協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- **対象** : 中学2年生
- **講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- **期間** : 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- **実施校数** : 80校程度
- **実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

## 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、  
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



## 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、  
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



**1コマ目**

**運動の時間 / 50分**

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

**2コマ目**

**座学の時間 / 50分**

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき  
「オリンピックの価値」等を  
伝える



個人またはグループワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：高橋 萌木子 先生 (陸上競技／短距離)【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2023年1月25日(水)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・中学生まで野球やソフトボールを経験し、高校生から本格的に陸上競技に取り組む。特に100m、200m、4×100mリレーを専門とし、ロンドン2012大会に参加したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「一生懸命頑張る」、フレンドシップ：「協力する」、リスペクト：「ルールを守る」と説明。運動の時間は、体を動かしながらオリンピックバリューを意識し取り組んでほしい。準備体操は、体育館を1周走った後、ストレッチを行い、その後「体を使った後出しじゃんけん」を実施。

○主運動等



・主運動は、「新聞紙ボール運びリレー」を実施(全3回)。班毎に分かれて2人組を作る。新聞紙にボールを乗せ、折り返し地点のコーンを回り戻る。次のペアに手を使わずにボールを渡し、ゴールした順位を競う。1回目はバレーボールを使用。2回目以降はバレーボールに加え、バスケットボール、テニスボール、卓球ボールのいずれかを選択できるルールに変更。ペアや走順の変更、ボールを渡す手順等を各班で考え工夫し、どうすれば早くゴールできるかを考える作戦タイムを実施。



・運動の時間を通して、何事も結果だけが全てではないことを知ってほしい。作戦タイムで、皆が意見を出し合い、お互いに声を掛け、決められたルールの中で、班の仲間と協力し一生懸命に取り組んだことは、オリンピックバリューの全てに当てはまる。座学の時間は、自身の陸上競技を続けてきた経験談が、オリンピックバリューにどのようにつながるかを話す。また、運動の時間を通して感じたオリンピックバリューを、皆自身が考える時間にしてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：高橋 萌木子 先生 (陸上競技／短距離)【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2023年1月25日(水)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・座学の時間は、「何事にも必ず意味がある」ことをテーマに話し、オリンピックバリューとはどんな意味があるかを皆と考えたい。現役時代の映像を見ながら、良い成績を残し笑顔で笑うこともたくさんあったが、その裏で悔しい思いもたくさん経験した。その悔しさが、今の自分自身を頑張らせてくれている。実際に使用していたシューズとバトンを披露。バトンは、ライバルであり仲間であるメンバーと、リレーを走る際、渡すだけではなく、心もつなぐ大切なものだ。走ることが大好きだからこそ、辛い経験をしても続けることができた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：夢や目標を達成するために、どんなことができるか、オリンピックバリューに当てはめて考えよう。

発表：エクセレンス：「諦めない」「最後まで粘り強く取り組む」「ベストを尽くす」「何事にもチャレンジする」等

フレンドシップ：「声を掛け合う」「チームワークを大切に」「仲間の気持ちを思いやる」「助け合う」「協力する」等

リスペクト：「相手を尊重する」「人には常に敬意を持って接する」「全ての人に感謝」「対戦相手に感謝」「やってみることの大切さを考える」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューはオリンピック選手だけのものではなく、皆の日常生活の中にも、深く関わっていることを忘れてほしくない。これから夢や目標に向かう中で、オリンピックバリューを意識することは、挫折したり壁にぶつかった時、必ず役に立つ。授業のテーマであった、「何事にも必ず意味がある」とは、自身にとっては、今日のオリンピック教室を通して、皆に出会え一緒に過ごせたこと、オリンピックバリューについて皆と考える時間を持てたことの全てに意味がある。これからもオリンピックバリューを頭の片隅に入れ、楽しい学校生活を過ごしてほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック** : 中山 英子 先生 (スケルトン)  
【出場オリンピック/ソルトレークシティー2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2023年1月25日(水)
- **ク ラ ス** : 2年2組/運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・ソルトレークシティー2002、トリノ2006冬季大会の2大会に、スケルトン競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「何事にも全力で取り組む」、フレンドシップ：「班の仲間と協力する」、リスペクト：「ルールを守る」と説明。運動の時間は、オリンピックバリューを意識して取り組んでほしい。準備体操後、スケルトン競技のスタート姿勢を体験してほしいと話し、ひとり1枚雑巾を持ち、体育館半分の距離を2往復、両手、その後片手で雑巾がけを実施。

○主運動 等



・準備運動は、「新聞じゃんけんバランス」を実施。大きく広げた新聞紙の上に立ち、じゃんけんで負けた場合は新聞紙を2つに折っていき、誰が最後まで新聞紙の上で立っているかを競う。  
 ・主運動は、「新聞紙ボール運びリレー」を実施(全3回)。6班に分かれ班毎に2人組を作る。新聞紙の上にボールを乗せ、折り返し地点のコーンを回って戻る。次のペアに手を使わずにボールを渡す。途中作戦タイムを設け、どうすれば早くゴールできるかを話し合う。



・運動の時間を振り返り、作戦タイムで、皆がお互いの意見を出し合い、協力できたことがよい結果につながった。上手く結果に結びつかなかった班もあったが、お互いの意見を聞き、考え、工夫することが大切だ。そのことはオリンピックバリューにつながる。座学の時間は、自身の競技生活で感じたオリンピックバリューを話し、皆と「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について、一緒に考えていきたいと話し、授業終了。



- **オリンピック** : 中山 英子 先生 (スケルトン)  
【出場オリンピック/ソルトレークシティー2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2023年1月25日(水)
- **ク ラ ス** : 2年2組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スケルトン競技で、ソルトレークシティー2002、トリノ2006冬季大会に出場、オリンピックには5回挑戦し、2回出場することができたと自己紹介。競技映像を見ながら、スケルトン競技はスイスが発祥であり、約2kmの氷上のコースを約135kmのスピードで滑走する競技だと説明。高校生まで陸上競技を経験していたことで、スケルトン競技のスタート姿勢が得意だった。また文章を書くことが好きだったため新聞記者になり、それが競技を始めるきっかけになった。皆も自分が好きなことを続けたり、興味があることを大事にしてほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返り、感じたことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「全力で取り組んだ」「高い順位を目指した」「新聞紙が破れても諦めなかった」「諦めず最後まで走った」「負けても楽しむ」等  
 フレンドシップ：「ペアの相手と息を合わせた」「仲間が転んだとき助け合った」「作戦を仲間と一緒に考えた」「役割を決めて協力した」等  
 リスペクト：「ルールを守って取り組んだ」「ミスを責めない」「他のチームも応援した」「用具に感謝した」等



・座学の時間を振り返り、何事も結果は出るものだが、結果が全てではなく、その過程が大切だ。皆と一緒に作戦を考え、仲間を思いやり一生懸命取り組んできたことはオリンピックバリューにつながる。これからも今日感じたことを忘れずに、オリンピックバリューを意識して、何事も諦めずに取り組んでほしいと話す。最後に、オリンピック出場時に着用したウエアとヘルメットを披露し、授業終了。

- **オリンピック** : 中山 英子 先生 (スケルトン)  
【出場オリンピック/ソルトレークシティー2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2023年1月25日(水)
- **ク ラ ス** : 2年3組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・スケルトン競技で、ソルトレークシティー2002、トリノ2006冬季大会に2大会連続で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「何事にも全力で取り組む」、フレンドシップ：「仲間と協力する」、リスペクト：「ルールを守る」と説明。スケルトン、ボブスレー、リュージュの3つの競技の滑走姿勢を説明し、皆で実践してみる。その後、スケルトン競技のスタート姿勢を真似て、雑巾掛けを実施。

○主運動 等



・準備運動は、「新聞じゃんけんバランス」を実施。広げた新聞紙の上に立ち、じゃんけんに負けたら新聞紙を2つに折っていき、誰が最後まで新聞紙の上に立ってられるかを競う。  
 ・主運動は、「新聞紙ボール運びリレー」を実施(全3回)。6班に分かれ班毎に2人組を作る。新聞紙の上にボールを乗せ、折り返し地点のコーンを回って戻る。次のペアに手を使わずにボールを渡す。途中作戦タイムを設け、どうすれば早くゴールできるかを話し合う。



・運動の時間を振り返り、皆が一生涯懸命走り、全力で取り組む姿勢は、オリンピックバリューの「エクセレンス」、作戦タイムで仲間と話し合い、協力できたことは「フレンドシップ」、ルールを守り、丁寧にボールを渡したことは「リスペクト」だ。座学の時間は、自身のオリンピック出場までの経験談をオリンピックバリューに結び付けて話し、皆も運動の時間に感じたオリンピックバリューを振り返りながら、日常生活の中のオリンピックバリューを見つけてほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック** : 中山 英子 先生 (スケルトン)  
【出場オリンピック/ソルトレークシティー2002冬季大会、トリノ2006冬季大会】
- **期 日** : 2023年1月25日(水)
- **ク ラ ス** : 2年3組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スケルトン競技でソルトレークシティー2002、トリノ2006冬季大会に出場したと自己紹介。自身が出場した際の映像を見ながら、競技説明。中学、高校時、陸上競技部に所属していたおかげで、スケルトンのスタート姿勢が得意だった。また文章を書くことが好きだったため、大学卒業後は新聞記者になり、長野1998冬季大会での取材がきっかけで、スケルトン競技を本格的に取り組みはじめた。皆も得意なことや興味があること、好きなことを大切にほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間を振り返り、感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「失敗をしても最後まで諦めずに走り切る」「負けても楽しむ」「低い姿勢で走る工夫をした」「勝つことを目指した」等  
 フレンドシップ：「お互いに声を掛け合った」「改善点を見つけ修正した」「相手と息を合わせた」「皆の意見をまとめた」「仲間を助ける」等  
 リスペクト：「励まし合う」「ルールを守りながら楽しんだ」「相手のミスを責めない」「相手のスピードに合わせた」「相手のことを考えて動いた」等



・座学の時間を振り返り、グループワークの発表を聞いて、皆がオリンピックバリューをしっかり理解できていることがわかる。スポーツだけでなく、勉強やテストの結果も大切だが、頑張る経過が重要であることを知ってほしい。これから受験だけではなく、夢や目標に向かっていく上で、辛いこともたくさんあると思う。その時に、仲間と助け合いながら過ごした時間を思い出し、周りの人に思いやりの気持ちを持って接し、目標達成に向けて、努力してほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)  
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日** : 2023年1月26日(木)
- **ク ラ ス** : 2年4組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スケート/フィギュアスケート競技で、バンクーバー2010冬季大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス:「卓越」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ:「友情」「仲間を大切にする」、リスペクト:「敬意」「尊重」「ルールを守る」と説明。運動の時間は、オリンピックバリューを意識しながら、皆で協力し取り組んでほしい。準備体操は、走る(前向き・後ろ向き)、スキップ(前向き・後ろ向き)、サイドステップ(左右)、クロスステップ(左右)の4つの動きを組み合わせたサーキットトレーニングを実施。

○主運動等



・準備運動は、「新聞じゃんけんバランス」を実施(全2回)。広げた新聞紙の上に立ち、じゃんけんを10回連続で行う。じゃんけんに負けたら、新聞紙の上に乗ったまま新聞紙を折る。10回終了後、班で合計何回新聞紙を折ったかを競い、折った回数が多い班が勝ち。ルールを良く聞き、理解することが大切だと話し、作戦タイムを設け、各班知恵を絞りながら実施。主運動は、「ボール渡しリレー」を実施(全2回)。各班でバレーボールを渡しながらスタートから折り返し地点のコーンを回って戻り、順位を競う。コーンは全員が回る、全員が一度は必ずボールを受け取る、ボールを持っている人は走らない等、ルールを決める。ルール以外を上手く考え活用するため、各班作戦を考える。



・運動の時間を振り返り、体を動かしながら、ルールを理解し一生懸命頑張ったことは、オリンピックバリューの「エクセレンス」、仲間と協力し作戦タイムで話し合ったことは「フレンドシップ」、決められたルールを守ったことは「リスペクト」に当てはまる。スポーツの世界もルールは日々変わる。ルールを理解するということは、ルールに対応していくことだ。自分自身が考えることを大切にしたい。座学の時間で感じたオリンピックバリューを振り返り、皆が今どのような目標に向かってオリンピックバリューを活かせるかを、考える時間にしたいと話し、授業終了。

- **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)  
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日** : 2023年1月26日(木)
- **ク ラ ス** : 2年4組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・運動の時間を振り返り、ルールを理解し、考え、対応することはとても難しい。そのため上手いかなかった班もあったと思うが、皆は様々な作戦を考え、それに挑戦したことは素晴らしい。近代オリンピックの父と言われる、ピエール・ド・クーベルタンが伝えたかった理想の人間像は、自己を知り、自己を律し、自己に打ち克つことのできる人間であり、スポーツを通じてより良い世界を作りたいと考えた。オリンピック出場時の映像を見ながら、競技の説明をし、滑る前にいつも背中をポンと叩いてくれるスケートの先生に今でも感謝していると話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問(個人ワーク) : 運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。  
 発問(グループワーク) : 体育祭に於いて、種目を絞り、その種目を頑張るために、オリンピックバリューをどのように活かせるか考えてみよう。  
 発表 : エクセレンス : 「長縄を声を掛け合い、最後まで諦めないで跳ぶ」「全員リレーで仲間のためにベストを尽くす」「長縄を限界まで跳び続ける」等  
 フレンドシップ : 「長縄が得意な人にも合う作戦を考える」「全員リレーでは仲間を大切に」「長縄で引っかかっても仲間を責めない」等  
 リスペクト : 「長縄のルールを守る」「全員リレーで頑張る仲間を尊敬する」「長縄と一緒に跳ぶ仲間から学ぶ」「全員リレーの仲間に感謝」等



・座学の時間を振り返り、グループワークの発表は各班素晴らしかった。オリンピックバリューは、オリンピックに出場する選手だけが感じているものではなく、皆の日常生活の中にも、様々な問題を仲間と一緒に考えたり、学校の決められたルールを守ることで、何かを感じたり、学ぶことがある。全てはオリンピックバリューにつながる。これからの学校生活でも、オリンピックバリューを、頭の片隅に置き、何事も考えながら取り組み、たくさんのごことにチャレンジしてほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)  
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日** : 2023年1月26日(木)
- **ク ラ ス** : 2年5組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・バンクーバー2010冬季大会に、スケート/フィギュアスケート競技の日本代表として出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス:「卓越」「ベストを尽くす」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ:「友情」「仲間を大切にすること」、リスペクト:「敬意」「尊重」「ルールを守る」と説明。運動の時間は、ルールを守り、仲間と協力し、オリンピックバリューを意識しながら取り組んでほしい。準備体操は、走る(前向き・後ろ向き)、スキップ(前向き・後ろ向き)、サイドステップ(左右)、クロスステップ(左右)の4つの動きを組み合わせたサーキットトレーニングを実施。

○主運動等



・準備運動は、「新聞じゃんけんバランス」を実施(全2回)。広げた新聞紙の上に立ち、じゃんけんを10回連続で行う。じゃんけんに負けたら、新聞紙の上に乗ったまま新聞紙を折る。10回終了後、班で合計何回新聞紙を折ったかを競い、折った回数が多い班が勝ち。ルールを良く聞き、理解することが大切だ。途中作戦タイムを設け、各班知恵を絞りながら実施。主運動は、「ボール渡しリレー」を実施(全2回)。各班でバレーボールを渡しながらスタートから折り返し地点のコーンを回って戻り、順位を競う。コーンは全員が回る、全員が一度は必ずボールを受け取る、ボールを持っている人は走らない等、ルールを決める。ルール以外を上手く考え活用するため、各班作戦を考える。



・運動の時間を振り返り、ルールを理解するだけでなく、そのルールを読み解く力が大切だ。仲間と意見を出し合い、考えた作戦を一生懸命実践することは「エクセレンス」であり「フレンドシップ」でもある。また他の班の作戦を参考にすることは「リスペクト」につながる。座学の時間は、自身の経験談をオリンピックバリューに結び付けて話し、皆も運動の時間に感じたオリンピックバリューを、自分の目標を達成するためにどのように活かせるかを考えてほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック** : 小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)  
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日** : 2023年1月26日(木)
- **ク ラ ス** : 2年5組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・運動の時間を振り返り、作戦が上手くいった班も上手くいかなかった班もあったが、結果が全てではなく、班の仲間と一緒に必死に考えた作戦を実践したことはとても素晴らしい。オリンピックシンボルについて、5つの輪は5大陸を表し、背景の白を含めた6色で世界中の国旗が描ける。近代オリンピックの父と言われるピエール・ド・クーベルタンが伝えたかった理想の人間像は、自己を知り、自己を律し、自己に打ち克つことのできる人間であり、スポーツを通じてより良い世界を作りたいと考えた。それがオリンピックバリューだと説明。その後、映像を見ながら、競技の説明をする。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



- 発問(個人ワーク)：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。
- 発問(グループワーク)：体育祭に於いて、種目を絞り、その種目を頑張るために、オリンピックバリューをどのように活かせるか考えてみよう。
- 発表：エクセレンス：「長縄の練習を毎日、ベストを尽くして行く」「リレーで最後まで気を抜かない」「長縄で失敗した原因を考える」等
- フレンドシップ：「長縄で失敗しても仲間を責めない」「長縄の苦手な人が跳びやすいように工夫する」「リレーの練習中に声を掛け合う」等
- リスペクト：「長縄の練習場所を提供してくれたことに感謝」「長縄の回数を嘘をつかずに報告する」「長縄をお互い優しい気持ちで跳ぶ」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックで金メダルを獲得するために頑張ることは大切だが、そのために様々な努力をすることはもっと大切であり、その過程で多くの事を学ぶことがオリンピックの良いところだ。皆がテスト勉強をする際も、一生懸命毎日勉強することは素晴らしいが、カンニングをしないというルールを守ったり、勉強を教えてくれる先生に感謝することもとても大切なことだ。すべてオリンピックバリューにつながっている。オリンピックをもっと身近に感じて貰い、これからもオリンピックバリューを頭の片隅に置き、何事にもチャレンジしてほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組





■集合写真

・2年3組



・2年4組



## ■集合写真

・2年5組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



・2年4組



・2年5組



■ 修了証贈呈

